

＜北西航路&グリーンランド 13日間＞

第1日目:オタワからカンガルッスアック(グリーンランド)へ

午前中にオタワからチャーターフライトにて、グリーンランド西側の町、カンガルッスアックへと向かいます。到着後、町を散策した後に乗船します。乗船後には世界でもっとも長いフィヨルドのひとつ、ソンドレ・ストロームフィヨルドの両側にそそり立つ断崖を見ながらウエルカムカクテルをお楽しみ下さい。

第2日目:シシミウ

午後にシシミウの町に訪問する前にフィヨルド沿岸を探訪してみたいと思います。カラフルな小さな家々が何とも絵ハガキのようです。町では伝統的なグリーンランド人のカヤッカーに出会うことでしょう。グリーンランド・カヤック・チャンピオンシップで前回チャンピオンになった人による「エスキモーローリング」のデモンストレーションが見られるかもしれません。

第3日目:イルリサット&ヤコブセン・アイスフィヨルド(グリーンランド)



今日のハイライトは一言でいえば、「氷・冰山」です。探検チームのメンバーは、北極・南極どちらも経験豊かなメンバーでさえここにくると船の周りすべての氷の彫刻に圧倒されてしまうのです。

イルリサットは、クヌートラスムッセン(Kund Rasmussen)の生まれ故郷でもあります。グリーンランドの最も有名な探検家であり、人類学者で1879年にここで生まれました。綺麗な港にカラフルな漁船と沿岸に建つかわいい家並みが印象的です。

世界の奇観のひとつヤコブセン・アイスフィヨルドはディスコ湾へと大きな卓上冰山がどっと流れだしている場所です。1日で40mほど氷河が流動し、年に50kmほどにもなります。フィヨルドの入口近くへと冰山の量にもよりますが出来るだけ近くに船で近寄ってみたいと思います。ユネスコの世界遺産に登録されています。

第4日目:バフィン湾 海上

バフィン島のごつごつした海岸線を後にゆっくりとバフィン湾を横切ります。船内では、専門家達による歴史や野生動物などのレクチャーが開かれています。

一方、ナチュラリストは、常に双眼鏡でフルマカモメやウミスズメ、ゴンドウクジラ、オルカなどを探しています。グリーンランドに近づくと、ナガスクジラやイワシクジラのような大きなヒゲクジラが現れてくることでしょう。

第5日目:ミティマトリック(ポンドインレット)

バフィン島の北にある、ミティマトリックのイヌイットの集落へと向かいます。ここのハイライトは、ビジターセンターで地元の老若男女による伝承文化や室内ゲームのショーを見ることです。また、昔からの生活道具や動物などの展示品のほか、イヌイットの彫刻工芸品や宝飾品などの見学ができます。少しでも、土産品などを購入することでイヌイットの町へのサポートにつながります。イヌイット達の子供たちとの交流も楽しみです。

第6日目:ランカスター海峡&ダンドスハーバー

私達は今、ほぼ北緯75度の地点にきています。デボン島の海岸沿いをクルージングし、ランカスター海峡の水路を

航行しています。この地域は、北極の野生生物にとって「スーパーハイウェイ」と呼ばれる程の多くの生物が生息する場所です。海域には栄養豊富なプランクトンが集まる為です。海鳥をはじめ、鯨、ワモンアザラシ、イッカク、シロイルカ、北極クマ、セイウチなど多種多様な生き物たちの楽園です。氷の状況や気象状況によりますが、ランカスター海峡の沿岸に沿って航行し上陸してみましょう。

カナダ北極圏には多くのハイキングコースや野鳥観察の場所が点在しています。まずは、デボン島にあるダングラスハーバーへと向かいます。ここは海鳥をはじめ、鯨、ワモンアザラシ、アゴヒゲアザラシ、イッカク、シロイルカ、北極クマ、セイウチなど多種多様な生き物たちの楽園です。歩いて王立カナダ騎馬警察の派出所の跡地を見学しましょう。海岸に目をやれば、そのあたりはさまざまな形の氷山が岸边まで押し寄せています。

第7日目:マックスウエル湾、デボン島

デボン島のマックスウエル湾に上陸し、ハイキングやチューレ遺跡を見学します。ゾディアックボートでクルーズも楽しみましょう。

第8日目:ビーチ島

ビーチ島は、北西航路を探訪するには大変重要な場所です。ここは、フランクリン隊の不運に満ちた隊員たちが1845年の最後の「慰安」の冬を過ごした場所です。その後、カナダの北方群島の海図が完成したほど、信じられないくらいの捜索隊を送り込んだのです。ほぼ30年間も続きました。

ビーチ島では吹きさらしの海岸にある墓標を訪れますが、歴史好きにとってもまた多くの参加者たちにとってもワクワクする場所になることでしょう。

第9日目:プリンス・レオポルド島

プリンス・レオポルド島は、カナダ渡り鳥自然保護区でハシブトウミガラスや黒ウミガラス、アングロミツユビカモメ、北極フルマカモメが数十万羽いると言われています。

この周辺の豊富な餌を求めてベルーガ、イッカク、北極クジラや数種類のアザラシ、白クマなどもやってきます。

第10日目:フォートロス&ペロー海峡

今日はソマーセット島の南方の端にあるフォートロスに上陸します。ここは、かつてのハドソン湾会社の毛皮交易の出先機関があった場所です。この近くにある古の遺跡はイヌイットや彼らの先祖たちによる集落の痕跡で、数千年の歴史があります。

その後ペロー海峡の狭い水路を通過します。北アメリカ大陸からソマーセット島の北に分かれる海峡です。潮流を避け、ゆっくりとした海流へと航行する予定です。この海峡には海洋哺乳動物が好む栄養豊富な餌場となっています。タテゴトアザラシやアゴヒゲアザラシ、北極クマなどにも遭遇することでしょう。

第11日目:カニンガム湾



早朝にプリンスオブウェールズ島の東海岸にあるカニンガム湾に到着予定です。ここは北西航路の心臓部、おそらく北極海きつての野生生物観察スポットであり、北極クマの頻出地としても有名です。ベルーガ(シロクジラ)が、海底の砂利に白い表皮をこすりつけて脱皮するため、年に一度浅い入江にやってきます。そして潮が引いたときに浅瀬にとり残されて、北極クマの餌食になることもしばしばです。相当数の群れのなかには母と子の姿もよく見かける

一方で、浜辺にベルーガの骨が散乱しています。北極圏の生き物の厳しい象徴の証しといえましょう。

第12日目:ビクトリーポイント、キングウイリアム島



船は北西航路へと針路をとります。船内では、プレゼンテーションが開催されます。伝説のサー・ジョンフランクリンのミステリーと遭難隊の行方が徐々に解きはじまりました。2014年9月にエレバス号が発見される前までは、凍てついた北極に最後の数か月を過ごした遺品は、ほんのわずかなものでしかありませんでした。すべてビクトリア海峡の海水の中に沈みすべての痕跡を絶ったのです。放棄されたライフボート、くつわ、わずかな銅や鉄などの破片、刃物類、ボタンそして骸骨などが散乱していました。生存者が救援を求めても叶わなかった虚しさがこの残された残骸から伝わってきます。このビクトリーポイントを訪れ、勇敢な男たちが命をかけて北極海に海路を開こうとした探検に想いをよせます。

2014年捜索に協力したワンオーシャンエクスペディションズの船は、科学者、歴史家、捜索隊員、お偉方や今回の歴史承認団のスポンサー達を乗せ、水中探査機を搭載して捜査にきわめて重要な役割を担いました。

現在、パークスカナダ海洋考古学チームとビクトリア海峡探検隊の協力のもと、調査が続いており、専門家達に言わせると姉妹船であるHMSテラー号もこの付近に沈んでいるのではと推測されています。この詳しい話は、船内レクチャーでお聴きしましょう。

第13日目:ケンブリッジベイ(ヌナブト準州)→エドモントン

午前中に下船し専用バスで空港へ。チャーターフライトでエドモントンに向かいます。

着後、各自帰国の途へ。

ご注意: 最終訪問地は現地の天候や氷の状況によりますのでご承知おきください。日程は、常に変化しますので概略としてご参考になしてください